

令和5年度第1回学校運営協議会 記録

日 時 令和5年6月13日（火）

10：00～11：30

場 所 高等部校舎会議室

○出席者

学校運営協議会委員5名 A委員（社会福祉関係者）
C委員（地域関係者）
D委員（企業関係者）
E委員（社会福祉関係者）
F委員（PTA関係者）
（B委員（地域関係者）欠席）

学校関係者9名 校長、副校長3名、事務長、総括教務主任、
小学部主事、中学部主事、高等部主事

～ 授業参観 ～

次 第

- I 開会のことば
- II 校長あいさつ
- III 協 議
 - 1 令和5年度学校経営計画について
 - 2 特別支援教育のセンター的機能について
 - 3 開かれた学校づくりについて
 - 4 いじめ防止対策について
 - 5 学校評価実施計画について
 - 6 その他
 - （1）令和4年度卒業生の進路状況
- IV 意見・提言
- V 閉会のことば

I 開会

II 校長あいさつ

昨年度から開催してきた学校運営協議会であるが、昨年度の2回目の運営協議会では、子どもの人権について学ぶ機会が必要とのご意見をいただいた。今年度もいろいろなご意見をいただき、学校運営にいかしていきたい。

コロナウイルス感染症が5類になったことを踏まえ、より地域に開かれた学校として取り組んでいきたいと考えている。学校へ行こう週間等の行事があるので、多くの方に来校して様子を見ていただきたい。

児童生徒たちの最近の様子として、小学部では遠足など校外での活動も行っている。中学部生徒は運動会でリーダーシップを発揮し、今は来週からの実習に向けて取り組んでいる。高等部では、先週から2週間におよぶ実習が行われている。多くの企業や福祉事業所の方々からご協力をいただき、自己選択の場面や様々な経験をさせていただいている。校内で活動を行っている生徒も力を蓄えている状態である。今後も、よりよいみだけ支援学校としていきたい。よろしくお願いいたします。

III 協議

1 令和5年度学校経営計画について 校長より説明

- (1) 教育目標
- (2) 運営方針
- (3) 運営の重点

進路指導の推進として、「自己選択・自己決定」で社会的自立に向け取り組んでいる。具体的に、高等部においては「知ること（1年生）、選ぶこと（2年生）、決めること（3年生）」というイメージをもっていただければ分かりやすいのではないかと考える。

地域との関りとしては、コロナ禍ではあったが、昨年度、中学部の青山雪あかりへのろうそくの納品や高等部が青山駅と警察学校への花植プランターの設置などを行っている。今年度も引き続き取り組む予定である。また、中学部では花植プランターを老人施設やコンビニエンスストア等に設置する活動も行う。

復興教育については、昨年度高等部では、厨川中学校や警察学校等と活動を行った。

5月にコロナウイルス感染症が5類になったことで、改めて学校としての基本方針を掲げ、全職員に周知しながら取り組んでいる。マスクの着用については、登校時のバスの中、行事、調理活動など、活動内容を踏まえて示しており、保護者の皆さんへも、生徒へのマスクの携帯をお願いしている。また昨年度と同様に、3密を避けることや消毒、換気について行っている状況である。

(4) 学部・分掌説明

[小学部]

- ・14名の新入生と1名の転入生が4月に入り、在校生とともに、運動会など友達と協力しながら活動している。
- ・各学年での遠足や校外活動も行われており、学年の児童の状況に合わせた計画で進めている。

[中学部]

- ・ 中学部 9 学級 42 名の生徒が在籍しており、そのうち 1 年生は 13 名で、小学部から 9 名と他校から 4 名が入学した。
- ・ 制服での生活、作業着への着替え等を行いながら中学部の生活になじんできている。
- ・ 今年度の総合的な学習では、地域に花を届けようということで、プランターに花苗を植え、地域に届けに行く計画をしている。
- ・ 来週から前期校内実習が始まる。今年度もリサイクル班は青山雪あかりへのろうそく納入に向け取り組む予定でいる。その他、陶芸班・木工班・生産班の 4 つの作業班で 2 週間の校内実習を行い、働くことへの力や意識を高めていこうと考えている。

[高等部]

- ・ 今年度は、1 年生 12 名が 4 月に中学部及び他校支援学級より入学してきた。
- ・ 高等部は卒業後の生活に向けての生活や活動に取り組んでいる。現在の実習もその一つで、保護者や生徒本人、担任等と「知る、選ぶ、決める」を踏まえ、実習先やその後の就労について考えて取り組んでいる。本日の授業一覧の裏側に現在行われている前期現場実習先の一覧を載せている。多くの福祉事業所や企業の方々にご理解いただき、取り組ませていただいている。
- ・ このような経験を踏まえ、資料のとおり、昨年度の卒業生の進路先も決まっている。
- ・ また、高等部では、地域の方々の協力を得ながら、防災教育などにも取り組んでいる。

[各分掌]

- ・ 資料参照

2 特別支援教育のセンター的機能について

- ・ 令和 4 年度特別支援教育センター機能実施報告（資料参照）

対応総件数が減っているのは、これまで関係機関等への支援が行われてきたことで、関係する方々がスキルアップしてきたからだと考える。しかし、小中学校の通常学級の中にも気になる生徒がおり、発達障害に関しての支援や集団での活動が難しい生徒への支援は増えてきている。今後も、支援部としての専門性を高め、相談業務に取り組んでいくことが課題と考える。

- ・ 『みたけゆいネット』リーフレット参照

3 開かれた学校づくりについて

- ・ 今年度は、2 回の開催を予定しており、第 2 回は 2 月 19 日（月）小中学部校舎で実施予定。
- ・ P T A 総会開催日の授業参観については、コロナウイルス感染症が 5 類になっていなかったため実施しなかった。
- ・ 学校運営協議会では、児童生徒の成長を見守りつつ、学校を含めた地域の未来についても考えていきたい。

4 いじめ防止対策について

- ・年度初めには全職員への徹底を図っている。
- ・本校としては、いじめ防止対策推進法を基本に考えている。保護者やデイサービスの方々から児童生徒の様子等を伺いながら、早い段階での状況把握及び指導が大切と考え、未然防止及び早期解決を考えている。
- ・いじめ事案が発生した際には、本校のマニュアルに沿って対応していく。
- ・子どもの人権については、年度当初に各学部でコンプライアンス研修会を行っている。生徒に対しても、昨年度高等部で、夏休み明けにスライド等を使いながら人権教育を行っている。
- ・いじめに対しての認知の仕方にもかかわってくることだが、全教職員への認知も欠かせないと考え、基本方針を出している。

5 学校評価実施計画について

- ・令和5年度学校評価実施計画について説明
- ・令和6年2月19日の第2回運営協議会では、今年度集約したものを示す予定であり、委員の皆様からのご意見をいただきたい
- ・調査方法に関して、今年度は1人1台端末（ICT 機器）を使用して行う予定であるが、難しい場合は、紙面での聞き取りをする。
- ・集約結果は、本校ホームページや文書で公表する。

6 その他

(1) 令和4年度卒業生の進路状況について

- ・資料参照
- ・中学部の卒業生は高等部で元気に生活している。
- ・高等部の卒業生については、この実習期間中に在校生の様子を見に行きながら、卒業生の就労状況も確認している。どの卒業生も元気に頑張っている。

【質問・意見】

C委員：配付資料より、職場実習先がたくさんあるのに驚いた。

一般就労している2名へのアフターケアは学校でやっているようであるが、企業の方から在学中に指導してほしいこととしてどのようなことがあるのか。一般的に最低賃金があるが、生徒たちはしっかり保証された生活がなされているのか。また、賃金について、学校では把握しているのか。ただし、就労のA Bは別だとは思うが。

生徒たちは療育手帳を持っているのか、また、どのように会社の方に活かされているのか。私が関わっていた頃はハローワークより指導があったが、個人の自由であった。

校長：一般就労の賃金については、基本的にハローワークを通して就職に関しての手続きを行っているので、除外はない。手帳については、様々な手帳（療育手帳、精神保健手帳等）を取得し、障がい者枠での就職となっている。企業の方にも、障がい者雇用をしていただくことでのシステムを理解していただいており、一般就職に関しては、ハローワーク、企業、本人・保護者と、

しっかり話をした中で進めている。

C委員：職業センターは利用しているのか。

校長：現在、学校からの直接の就職活動には職業センターは利用していない。

E委員：15名の卒業生の日中活動の場は資料で分かるが、15人全員が自宅から通勤しているのか、グループホームなどを利用している生徒はいないのかを教えてください。将来の生活を決めるにあたっては、日中活動の場所と生活する場所を合わせて考えていかなければならないと考える。

校長：昨年度の卒業生でグループホームを利用した生徒はいない。今年度は1名利用希望者がいる。

C委員：グループホームについて、国の方針が変わってきているのではないかと。

校長：家庭から就職先へ通うことができればいいが、公共交通機関等を利用しても、就職先への通勤が難しい場合には、その就職先へ通えるグループホームを利用するということもある。家庭支援が必要な生徒もおり、その生徒に関しては、生活の場を作ることも必要と考える。国の方向性が変わったのではなく、生徒一人一人の状況を考えて、長く働くためにはどうしていけばいいかを考えて取り組んでいる。

C委員：グループホームが市町村にもっとあったほうがいいのではないかと。そのために、行政の力が必要なのではないかと考えた。

IV 意見・提言

【A委員】

- ・生徒の様子を見させていただき、安心した。コロナの影響でいろいろあったが、自分たちも徐々に地域に出ていく機会を増やしたいと考えている。卒業後の受け入れ側としても、今回の見学や協議会は参考になった。
- ・グループホームについても、3年から5年をめどに設置計画がある。ご本人からというより、支援度の高い保護者様の願いからのものである。親なき後のことを考えて、計画している。

【C委員】

- ・小中学部の運動会を見学した。今日の高等部の授業見学もした。先生方が一生懸命やられていると感じた。地域に開かれた活動を実践されていることもうかがった。二戸地域にはいつ学校ができるのか。

校長：令和8年度に設置予定である。場所は現在高等部がある福岡工業高校の敷地内で検討している。

【D委員】

- ・見学時に、今年度は木工班が無いと聞いた。生徒数の減少も関係あるのだろうか。公立高校の統合等の話も耳にする。将来的に支援学校でも生徒減少は起こってくるのか。一生懸命頑張っている生徒たちのやりたいことが狭められてくるのかと考え、社会全体で考えていかなければならないと思う。
- ・個々の学校の特徴かもしれないが、小中学部と高等部の校舎が別であることで、小中学部の生徒が、高等部の生徒の活動の様子を見ることができないのが残念である。高校生と接することで、自分の将来像を見ることができないのではないかと。中高の連携を

とり、一緒に活動できることが何かあれば、お互いに刺激になるのではないか。企業としては、卒業をしてからの手伝いとなるが、これからもよろしくお願いいたします。

【E 委員】

- ・お弁当作りという新しい活動を見学できた。
- ・少子化と言われているが、和光学園の子どもたちなど、支援を必要とする方も増えている。地域のセンター的機能として、こちらの学校は求められていると思う。
- ・現在教員に欠員があるのか。教員の欠員が子どもたちの教育に与える影響は大きい。県教委に伝え、欠員がないようにしてほしい。

【F 委員】

- ・最近盛岡市外に転居した。長女は本校小学部にいるのだが、次女は自宅近くの小学校に在籍している。先日次女の学校の運動会を参観し、支援が必要な子どもたちがたくさんいると感じた。センター的機能の活用が、その子どもたちが少しでも嫌な思いをしないように、そしてその保護者への助けにもなればいいと感じる。また、小学校の行事を参観して、児童に対しての職員の配置人数が次女の転校前の学校よりも多いと感じた。どの学校でも、職員の人数は生徒にとって平等であり、適正であることを願う。

V 閉会